



連載

コラボの極意を学ぶ

～うまくいく多職種連携のポイント～

第5回

院内留学で仕掛ける職種内
連携と多職種連携



東京情報大学 看護学部
教授 松下博宣

前回（2023年1月合併号、No. 593）は、人と人は「遊びとこだわり」があってこそつながり合えるということをお伝えしました。

看護の現場においても、診療報酬制度の加点を得ることができるから、偉い人から連携しろと言われてたから……というマインドや、「～すべきだ」「～ねばならない」「～する必要がある」ばかりが先行する発想からは「遊びとこだわり」はなかなか生まれません。

「面白さ」あつての チーム医療・多職種連携

人は「面白さ」があつてはじめて「遊びとこだわり」を肌感覚で感じるすることができます。あなた自身が「遊びとこだわり」を感じているものを心に浮かべてください。スポーツや音楽、映画などの趣味や、仕事などにドキメキを感じるはずです。それは、そこに「面白さ」がはっきりとある、あるいはそこはかとなく「面白さ」が隠されているためなのです。つまり「遊びとこだわり」の源泉、そしてそれをブーストさせて高い次元にまでシフトするのは、「面白

さ」という複雑で相互依存的な認知作用です。

人がどんなモノ・コトに面白さを感じるのかというと、大きく以下の3つがあげられます。

1. 今まで触れることがなかった・知らなかったモノ・コト（新規性）
2. 自分にとって珍しく、好奇心をそそられるモノ・コト（珍奇性）
3. 自分もつ常識や想定とまったく異なるモノ・コト（意外性）

「うわっ、今までになかった！」という新規性、「こりゃ、めずらしい！」という珍奇性、「え、そんな！」と感じざるを得ない意外性が混交するモノ・コトに、ホモサピエンスたる人はふつふつと面白さを実感するという性質があります。チーム医療・多職種連携の進化や改善のためにも新規性、珍奇性、意外性が必要なのです。

ただし、人は、ひとりぼっちで新規性、珍奇性、意外性を追求することには慣れていません。ほとんどの場合は仲間を必要とします。社会的動物である

ホモサピエンスは、家族、種族、部族、仲間といったコミュニティのメンバーと新規性、珍奇性、意外性を分かち合い、増幅させることによって面白さを分け合って、チーム化・社会化し、さらに大きく深く拡大していきます。先にも述べましたが、やらされ感が強い仕事、義務感だけで行う仕事、つまらない仕事、自分たちでコントロールできない仕事……これらの仕事のまわりには、面白さが生じないし、面白いという共感とも無縁です。

面白さを感じられるようになるためのポイントは、図1に示すように、面白さを個人的認知から集団的認知に転換していくことです。「うわっ、今までになかった！」という新規性を軸にして面白さを伝達させ、「こりゃ、めずらしい！」という珍奇性によって類は友を呼んで類感性が高まり、「え、そんな！」という意外性を仲間と一緒に増幅させて共感性も高めます。すると、どんな仕事でも不思議なことに楽しくなってきます。

図1 個人的認知から集団的認知への転換

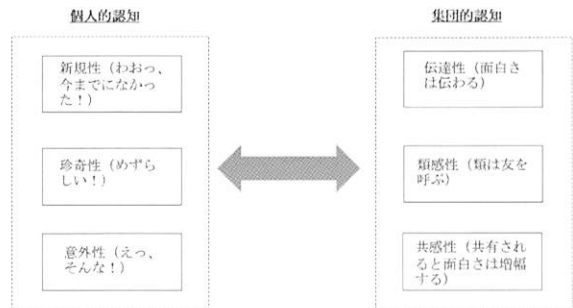
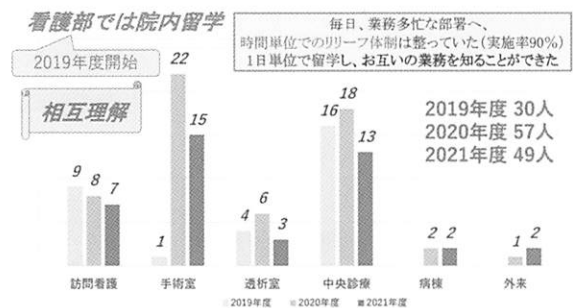


図2 院内留学参加者の推移



院内留学で相互理解を

以上のような考え方をを用いて、多職種連携を面白く展開している事例を紹介しましょう。

自治体立のA病院では、多職種連携サーベイ（連載第2回（2022年11月1日号、No. 589）で解説）を4年連続で実施しています。課題を明確化し、組織ぐるみの学習を進めるために、あるユニークな取り組みを進めています。

それは院内留学です。以前は各職種がタコソボ化していて、「チーム医療をやろう！」「多職種連携の推進を！」という掛け声は勇ましかったものの、多職種連携協働風土サーベイの結果、さまざまな課題が見える化されました。

多職種連携のハブとなる職種は、患者との接点の多さ、多職種とのかかわりの多さ、そして、人数の多さという点から、看護師であるといえます。さらに、ベテラン看護師が多職種連携のハブになるため

には、まずは異なる部署で働く看護師同士の連携を着実に高度化させていく必要があります。これを「職種内連携」といいます。多職種連携は、この職種内連携があって初めてなり立つのです。

このような経緯で、見える化された課題を共有し、解決するためのよいやり方、そして、図1に示したように面白さを感じることができるアイデアについて、A病院の皆で話し合いました。その結果、「院内留学」をやってみようということになったのです。


職種内連携が多職種連携を円滑にする

「院内留学」は、留学といっても、海外の大学や語学学校に行く留学ではありませんが、自分がよく知らない部署という「異国の地」に足を踏み入れ、よく知らない部署の文化、仕事の流れ、課題となっていることなどを知り、他部署の目線で自分たちの部署を見つめ直してみよう、という主旨があります。

図2は、A病院における1日単位での、訪問看護、

手術室、透析室……といった「院内留学」先別の参加者の推移（2019～2021年度）を示したものです。多職種連携風土サーベイの結果を見ると、着実な看護の職種内連携は、円滑な多職種連携を進めるステップボードとなっていることがわかります。

このA病院のように、院内留学などの活動をとおして職種内連携を図ることで、業務に「面白さ」を生み出せるようになり、多職種連携にもスムーズにつながっていきます。（編集協力：中山史奈）



病院を守れ！
存在こそ最大の使命

今日の患者トラブル、
対応とリスク管理の心得

北澤将著

ISBN978-4-86326-196-9

虎の門病院 事務次長 北澤将 著

A5判 / 274頁 定価：本体1,800円＋税

(株)産労総合研究所
出版部 経営書院

〒100-0004 東京都千代田区永田町 1-11-1 三宅坂ビル
ホームページからも
お申し込みいただけます。 <https://www.e-sanro.net>

TEL03-5860-9799
FAX(フリーダイヤル)0120-73-3641